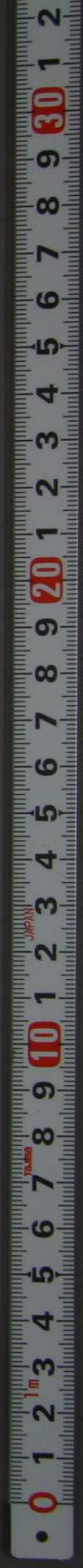


府縣制

秘

大隈





414  
A 2612  
2



總則

第一章 府縣ノ廢置分合及府縣境界ノ變更ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

府縣境界ニ當ル郡市町村ノ境界ヲ變更スルトキハ府縣境界モ亦自

ラ變更スルモノトス

本條ノ處分ニ付其財産處分ヲ要スルトキハ内務大臣之ヲ定ム但特



ニ法律ノ規定アルモノハ此限ニ在ラス

二

## 第二章 府縣會

第二條 府縣會ハ府縣内郡市ニ於テ選舉シタル議員ヲ以テ之ヲ組織ス

郡市ニ於テ選舉スヘキ府縣會議員ノ定數ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム但各郡市ヲシテ少クトモ一人ノ議員ヲ選舉セシムヘシ

東京市京都市大阪市ニ在テハ特ニ府會議員ヲ選舉セス其市會議員

ヲ以テ之ニ充ツ但勅令ヲ以テ其府會ニ出席スヘキ議員ノ數ニ制限ヲ付スルコトアルヘシ

第三條 府縣會議員ノ選舉ハ市ニ在テハ市會及市參事會會同シ市長ヲ會長トシ郡ニ在テハ郡會及郡參事會會同シ郡長ヲ會長トシ左ノ規定ニ依リ之ヲ行フヘシ但會長ハ投票ニ加ハラサルモノトス

一 投票ハ選舉人自ラ會長ノ面前ニ於テ之ヲ投票函ニ投入ス投票

ハ匿名トス

三



二 左ノ投票ハ之ヲ無効トス

一 記載セル人名ノ讀ミ難キモノ

二 被選人ノ何人タルヲ確認シ難キモノ

三 被選權ナキ人名ヲ記載スルモノ

四 被選人氏名ノ外他ノ文字ヲ記入スルモノ但爵位職業身分住所又ハ敬稱ハ此限ニ在ラス

本項一ヨリ三ニ至ルノ場合ニ於テ票中他ニ列記ノ被選人ニ付テ

ハ仍其効アリトス

三 有効投票ノ多數ヲ得ル者ヲ以テ當選トス投票ノ數相同キモノ

ハ年長者ヲ取り年齡相同キトキハ會長自ラ抽籤シテ其當選ヲ

定ム

第四條 府縣内市町村ノ公民中選舉權ヲ有シ其府縣ニ於テ一年以來

直接國稅十圓以上ヲ納ムル者ハ府縣會ノ被選權ヲ有ス

住居ヲ移シタル爲市町村ノ公民權ヲ失ヒタル者其住居同府縣内ニ



在リ且他ノ要件ヲ失ハサルトキハ仍府縣會ノ被選權ヲ有ス

其府東京府ハ警視廳トモ縣ノ官吏及有給吏員神官諸宗ノ僧侶又ハ教師ハ府

縣會議員タルコトヲ得ス

前項ノ外ノ官吏ニシテ當選シ之ニ應セントスルトキハ本屬長官ノ

許可ヲ受クヘシ

府縣會議員ハ衆議院議員ト相兼ヌルコトヲ得ス但東京市京都市大

阪市ニ在テ其市會議員ヲ以テ府會議員ニ充ツル場合ニ於テ市會議

員衆議院議員ト相兼ヌル者ハ此限ニ在ラス

第五條 府縣會議員ハ名譽職トス其任期ハ四年トシ每四年其全數ヲ

改選ス

東京府京都府大阪府ニ在テハ其市部議員ノ任期ハ市會議員ノ任期

ニ從フ但府會ニ於テ解散ヲ命セラレタルトキハ市會モ亦自ラ解散

ヲ命セラレタルモノトス

解任ノ議員ハ再選セラル、コトヲ得



此法律中東京府京都府大阪府府會ノ市部議員トアルハ東京市京都  
市大阪市ノ市會議員ヲ云ヒ郡部議員トアルハ東京市京都市大阪市  
ヲ除キ其他ノ部分ニ屬スル議員ヲ云フ

第六條 議員中闕員アルトキハ遅クトモ六箇月以内ニ補闕選舉ヲ行  
フヘシ

補闕議員ハ其前任者ノ殘任期間在職スルモノトス

第七條 府縣會議員ノ選舉ハ府縣知事ノ告示ニ依リ之ヲ行フヘシ其

告示ハ遅クトモ選舉ノ日ヨリ十四日前ニ之ヲ發スヘシ

第八條 選舉ヲ終リ當選人ノ定マリタルトキハ郡長市長ハ直ニ當選  
人ニ通知シ及府縣知事ニ報告スヘシ

當選人其當選ノ通知ヲ受ケタルトキハ五日以内ニ其當選ヲ承諾ス  
ルヤ否ヲ府縣知事ニ届出ヘシ

一人ニシテ數箇所ノ選舉ニ當リタルトキハ同期限内ニ何レノ選舉  
ニ應スヘキコトヲ府縣知事ニ届出ヘシ



前二項ノ届出ヲ其期限内ニ爲サ、ルトキハ總テ選舉ヲ辭スル者ト  
視做スヘシ

第九條 當選人其當選ヲ辭シ又ハ承諾ノ届出ヲ爲サ、ルトキハ府縣  
知事ハ其郡市ヲシテ十日以内ニ更ニ選舉ヲ行ハシムヘシ

第十條 當選人確定シタルトキハ府縣知事ハ當選證書ヲ付與シ及管  
内ニ告示スヘシ

第十一條 選舉人選舉ノ効力ニ關シテ訴願セントスルトキハ選舉ノ

日ヨリ十四日以内ニ之ヲ府縣知事ニ申立ルコトヲ得

第十二條 當選人其當選ノ際資格ノ要件ヲ有セサリシコト發覺スル  
トキハ其當選ヲ無効トス

當選人當選後資格ノ要件ヲ失フトキハ議員ノ職ヲ失フモノトス

第十三條 府縣會ニ於テ其議員中議員ノ資格ヲ有セサル者アルコト  
ヲ發見スルトキハ其議決ヲ以テ之ヲ府縣知事ニ通知スヘシ

第十四條 府縣會議員被選權ノ有無及選舉ノ効力ハ府縣參事會之ヲ



裁決ス

府縣參事會ノ裁決ニ不服ナル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得  
本條出訴ノ爲裁決ノ執行ヲ停止セス但判決確定スルニ非サレハ更  
ニ選舉ヲ爲スコトヲ得ス

十二

第十五條 府縣會ノ議決スヘキ事件左ノ如シ

- 一 府縣ノ歳入出豫算ヲ定ムル事
- 二 決算報告ヲ認定スル事

三 府縣稅ノ賦課徵收方法ヲ定ムル事

四 府縣有不動産ノ賣買交換讓渡讓受并ニ質入書入ノ事

五 歳入出豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除ク外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ  
及權利ノ棄却ヲ爲ス事

六 府縣有財産ノ管理及營造物ノ維持方法ヲ定ムル事

其他法律命令ニ依リ府縣會ノ權限ニ屬スル事項ヲ議決ス

第十六條 府縣會ハ其權限ニ屬スル事件ヲ府縣參事會ニ委任スルコ

十三



トヲ得

第十七條 府縣會ハ官廳ノ諮問アルトキハ意見ヲ陳述スヘシ

府縣會ハ其府縣ノ全部又ハ一部ノ公益ニ關スル事件ニ付府縣知事

又ハ内務大臣ニ建議スルコトヲ得

第十八條 府縣會議員ハ選舉人ノ指示若ハ委囑ヲ受クヘカラサルモ

ノトス

第十九條 府縣會ハ改選後ノ初會ニ於テ議長及副議長各一名ヲ互選

スヘシ其任期ハ議員ノ任期ニ從フ

議長副議長共ニ故障アルトキハ臨時議長ヲ互選スヘシ

第二十條 府縣知事若ハ特ニ知事ノ委任ヲ受ケタル府縣ノ官吏若ハ

吏員ハ府縣會ノ議事ニ參與スルコトヲ得但議決ニ加ハルコトヲ得

ス

前項ノ列席者ニ於テ發言ヲ求ムルトキハ議長ハ何時ニテモ之ヲ許

スヘシ



第二十一條 府縣會ハ毎年一回秋季ニ於テ通常會ヲ開ク通常會ノ會期ハ三十日以内トス其他必要アルトキハ其事件ニ限リ七日以内ヲ會期トシテ臨時會ヲ開クコトヲ得

府縣會ハ府縣知事之ヲ招集ス其招集ハ開會ノ日ヨリ十四日前迄ニ告示スヘシ但急施ヲ要スル場合ハ此限ニ在ラス  
府縣會ハ府縣知事之ヲ開閉ス

第二十二條 府縣會ハ現任議員三分ノ一以上出席スルニ非サレハ會

議ヲ開キ議決ヲ爲スコトヲ得ス

第二十三條 府縣會ノ議決ハ過半數ニ依ル可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第二十四條 議員ハ自己及其父母兄弟若ハ妻子ノ一身上ニ關スル事件ニ付テハ會議ノ承諾ヲ經ルニ非サレハ府縣會ノ議事ニ參與シ及議決ニ加ハルコトヲ得ス

第二十五條 府縣會ニ於テ選舉ヲ行フトキハ第三條ノ規定ニ依ルヘ



第二十六條 府縣會ノ會議ハ公開ス但左ノ場合ハ此限ニ在ラス

一 府縣知事ヨリ傍聽禁止ノ要求ヲ受ケタルトキ

二 議長又ハ議員五名以上ノ發議ニ由リ傍聽禁止ヲ可決シタルト

キ

議長又ハ議員ノ發議ハ討論ヲ用井スシテ其可否ヲ決スヘシ

第二十七條 東京府京都府大阪府會ノ職權ニ屬スル事件ニシテ專

ラ東京市京都市大阪市ニ關スルモノト專ラ其他ノ部分ニ關スルモノト分別スルコトヲ要スルモノアルトキハ府會ノ議決ニ依リ之ヲ分別スルコトヲ得

前項ノ分別ニ依リ專ラ東京市京都市大阪市ニ關スルモノハ其郡部議員ニ於テ其事件ノ議事ニ參與シ及議決ニ加ハルコトヲ得ス其他ノ部分ニ關スルモノハ市部議員ニ於テ其事件ノ議事ニ參與シ及議決ニ加ハルコトヲ得ス此場合ニ於テハ郡部議員市部議員ニ於テ各



臨時議長ヲ互選スヘシ

第二十八條 議長ハ議事ノ順序ヲ定メ會議及選舉ノ事ヲ總理シ其日

ノ會議ヲ開閉シ并ニ延會シ議場ノ秩序ヲ保持ス

第二十九條 議員ハ會議中無禮ノ語ヲ用<sub>キ</sub>及人身上誹謗ニ涉ル言論

ヲ爲スコトヲ得ス

第三十條 會議中此法律若ハ議事規則ニ違ヒ其他議場ノ秩序ヲ紊ル

議員アルトキハ議長ハ之ヲ警戒シ又ハ制止シ又ハ發言ヲ取消サシ

ム命ニ從ハサルトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ終ルマテ發言ヲ禁止シ

又ハ議場ノ外ニ退去セシムヘシ若強抗ニ涉ル者アルトキハ警察官

ニ命シテ之ヲ退去セシムルコトヲ得

議場騷擾ニシテ整理シ難キトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ中止シ又ハ

之ヲ閉ツルコトヲ得

第三十一條 議員中議場ノ秩序ヲ紊ルコト二回以上ニ及フ者アルト

キハ議長又ハ議員ノ發議ニ依リ議會ノ議決ヲ以テ七日以内其出席



ヲ停止スルコトヲ得

第三十二條 會議ノ傍聽人公然可否ヲ表シ又ハ喧騒ニ涉リ其他議事

ノ妨害ヲ爲ス者アルトキハ議長ハ之ヲ制止シ若命ニ從ハサルトキ

ハ警察官ニ命シテ之ヲ退場セシムルコトヲ得

傍聽席騷擾ナルトキハ議長ハ總テノ傍聽人ヲ退場セシムルコトヲ

得

第三十三條 府縣知事若ハ特ニ其委任ヲ受ケタル官吏若ハ吏員及議

員ハ議場ノ秩序ヲ紊リ又ハ議場ノ妨害ヲ爲ス者アルトキハ議長ノ

注意ヲ喚起スルコトヲ得

第三十四條 第三十條第三十二條ニ依リ議長ノ命ニ應セシムル爲府

縣知事東京府ハ  
警視總監ハ每會期警察官ニ議場掛專務ヲ命スヘシ

第三十五條 府縣會ニ書記ヲ置キ議長ニ隸屬シテ庶務ヲ掌理セシム

書記ハ議長之ヲ選任ス

第三十六條 府縣會ハ書記ヲシテ議事録ヲ製シ議決及選舉ノ顛末并



ニ出席議員ノ氏名ヲ記録セシムヘシ議事録ハ議長及議員二名以上  
之ニ署名スヘシ其議員ハ會議ノ前議會ニ於テ豫メ之ヲ定メ議事録  
中ニ其氏名ヲ記載シ置クヘシ

第三十七條 府縣會ハ議事規則及傍聽人取締規則ヲ設ケ内務大臣ノ  
認可ヲ受テ之ヲ施行スヘシ

第三章 府縣參事會吏員及委員

第三十八條 府縣ニ府縣參事會ヲ置キ府縣知事高等官二名及名譽職

參事會員ヲ以テ之ヲ組織ス

府ノ名譽職參事會員ハ八名トス郡部議員ニ於テ其議員中ヨリ四名  
ヲ互選シ東京市京都市大阪市ノ名譽職參事會員中ヨリ四名ヲ互選  
スヘシ

縣ノ名譽職參事會員ハ四名トス縣會ニ於テ其議員中ヨリ之ヲ互選  
スヘシ

第三十九條 府縣參事會員タル高等官ハ府縣廳ニ奉職ノ高等官中ヨ



リ内務大臣之ヲ命ス

第四十條 府縣參事會ハ府縣知事ヲ以テ議長トス議長故障アルトキ

ハ高等官會員之ヲ代理ス

第四十一條 府縣會ハ毎通常會ニ於テ名譽職參事會員ノ補充員四名

ヲ互選シ其名譽職參事會員ノ闕員アルトキハ府縣知事ニ於テ補充

員中當選ノ順次ニ依リ之ヲ補充スヘシ但其既ニ補充シタル者ハ前

任者ノ任期中在職スルモノトス

第四十二條 名譽職參事會員ノ任期ハ議員ノ任期ニ從フ但任期滿限

ノ後ト雖後任者就職ノ日マテ在職スルモノトス

名譽職參事會員ハ補充員ヲ以テ其闕員ヲ補充シ仍闕員ヲ生シタル

場合ニ於テハ二箇月以内ニ臨時其選舉ヲ行フヘシ

東京府京都府大阪府ニ在テハ郡部名譽職參事會員ニ對シ第四十一

條及本條第二項ヲ適用スルモノトス

此法律中東京府京都府大阪府會ノ市部名譽職參事會員トアルハ



東京市京都市大阪市ノ名譽職參事會員ニ於テ選舉シタル名譽職參事會員ヲ云ヒ郡部名譽職參事會員トアルハ郡部議員ニ於テ選舉シタル名譽職參事會員ヲ云フ

第四十三條 府縣參事會ノ職務權限左ノ如シ

一 府縣會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ其委任ヲ受ケタルモノヲ議

決スル事

二 府縣會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ臨時急施ヲ要シ府縣知事ニ

於テ府縣會ヲ招集スルノ暇ナシト認ムルトキ府縣會ニ代テ議決ヲ爲ス事

三 府縣會ノ定メタル方法ノ範圍内ニ於テ府縣有財産ノ管理又ハ營造物ノ維持ニ關シ必要ナル事件ニ付議決ヲ爲ス事

四 府縣ノ費用ヲ以テ支辨スル工事ノ次第順序其他必要ナル事件ニ付議決ヲ爲ス事

五 府縣知事及其他官廳ノ諮問ニ對シ意見ヲ述フル事



六 府縣知事ヨリ發スル府縣會議案ニ付府縣知事ニ意見ヲ述ヘ及  
會議ニ報告スル事

七 臨時必要アルトキ府縣ノ出納ヲ檢査スル事

其他法律命令ニ依リ府縣參事會ノ權限ニ屬スル事務ヲ處理ス

第四十四條 府縣參事會ハ府縣知事之ヲ招集ス

現任會員半數以上ノ請求アルトキハ府縣知事ハ府縣參事會ヲ招集  
スヘシ

第四十五條 府縣參事會ノ會議ハ傍聽ヲ許サス

第四十六條 府縣參事會ハ議長又ハ其代理者及現任名譽職會員半數

以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開キ議決ヲ爲スコトヲ得ス但第四

十三條第二ノ議決ヲ爲ストキハ高等官會員ハ其議決ニ加ハラサル

モノトス

府縣參事會ノ議決ハ過半數ニ依ル可否同數ナルトキハ議長ノ決ス  
ル所ニ依ル



議決ノ事件ハ之ヲ議事録ニ登記シ議長及名譽職參事會員二名以上  
之ニ署名スヘシ

第四十七條 府縣參事會員ハ自己及其父母兄弟若ハ妻子ノ一身上ニ  
關スル事件ニ付府縣參事會ノ議事ニ參與シ及議決ニ加ハルコトヲ  
得ス

前項規定ノ爲出席ノ參事會員減少シテ前條第一項ノ數ヲ得サルト  
キハ府縣知事ハ補充員ヲ以テ臨時之ニ充テ仍其數ヲ得サルトキハ

府縣會議員ニシテ該事件ニ關係ナキ者ノ内ヨリ臨時ニ指名シ名譽  
職參事會員ノ不足ヲ補充シテ第三十八條ノ定數ニ滿タシムヘシ

第四十八條 市制町村制ノ規定ニ依リ府縣參事會ノ權限ニ屬スル事  
件ニシテ二府縣以上ノ郡市町村ニ交渉スルモノアルトキハ其府縣  
知事ノ具狀ニ依リ内務大臣ニ於テ其事件ヲ管轄スヘキ府縣參事會  
ヲ指定スヘシ

第四十九條 東京府京都府大阪府參事會ノ職權ニ屬スル事件ニシテ



專ラ東京市京都市大阪市ニ關スルモノハ其郡部名譽職參事會員ニ於テ其事件ノ議事ニ參與シ及議決ニ加ハルコトヲ得ス其東京市京都市大阪市外ノ市町村若ハ郡ニ關スルモノハ市部名譽職參事會員ニ於テ其事件ノ議事ニ參與シ及議決ニ加ハルコトヲ得ス

第五十條 府縣知事ハ府縣會及府縣參事會ノ議決ヲ施行シ及府縣有財產及營造物ヲ管理シ並ニ府縣ノ費用ヲ以テ支辨スル工事ヲ執行ス

府縣ニ於テ他人ニ對シ義務ヲ負擔スヘキ證書及委任狀ニハ知事ノ外名譽職參事會員二名以上之ニ署名捺印スヘシ

前項ノ文書中府縣會又ハ參事會ノ職權ニ屬スル事件ニシテ其議決ヲ經タルモノハ總テ其旨ヲ記入スヘシ

第五十一條 府縣會ニ於テ名譽職參事會員ヲ選舉セス又ハ參事會成立セス又ハ招集ニ應セサルトキハ參事會成立シ又ハ招集ニ應スル迄府縣知事ハ府縣參事會ノ權限ニ屬スル事件ヲ專決處分スルコトヲ得



非常事變ニ際シ府縣參事會ヲ招集スルノ暇ナク又ハ名譽職參事會  
員ノ出席半數以上ニ至ラサルトキハ府縣知事ハ府縣參事會ノ權限  
ニ屬スル事件ヲ專決處分スルコトヲ得

本條ノ處分ハ次回ノ府縣會會議ニ於テ之ヲ報告スヘシ

第五十二條 府縣知事ハ府縣會ノ議決ニ依リ府縣ノ費用ヲ以テ府縣  
有財産又ハ營造物ノ管理若ハ土木工事ニ必要ナル有給ノ府縣吏員  
ヲ置クコトヲ得但府縣吏員ハ府縣知事ニ於テ之ヲ任免監督ス

府縣吏員ノ給料手當退隱料等ハ府縣會ノ議決スル所ニ依ル其身元  
保證金ヲ要スルトキ其金額ヲ定ムルモ亦同シ

第五十三條 府縣知事ハ府縣會ノ議決ヲ經テ臨時又ハ常設ノ委員ヲ  
置キ府縣事務ノ一部ヲ調査セシメ又ハ府縣有財産及營造物ノ一部  
ヲ管理セシムルコトヲ得其選舉又ハ選任ノ方法及任期ハ府縣會ノ  
議決スル所ニ依ル

委員ハ名譽職トス



第四章 府縣ノ會計

第五十四條 府縣有財産及營造物管理ノ費用府縣會府縣參事會及委

員ノ費用府縣吏員ノ給料退隱料其他諸給與及從來法律命令若ハ慣

例ニ依リ竝ニ將來法律勅令ニ依リ府縣ノ負擔ト定ムル事件ノ費用

ハ府縣ニ於テ之ヲ支辨スヘシ

第五十五條 名譽職參事會員及委員ニハ旅費滯在手當及出務日當ヲ

給スルコトヲ得府縣會議員ニハ旅費及滯在手當ニ限り之ヲ給スル

コトヲ得但滯在手當出務日當ヲ併セ一日一圓五十錢ヲ超ユルコト  
ヲ得ス

第五十六條 府縣ノ支出ハ府縣稅其他府縣ノ收入ヲ以テ之ニ充ツ

第五十七條 府縣稅目及其賦課徵收方法ニ關スル規定ハ此法律ニ依

リ變更シタルモノヲ除ク外從前地方稅ニ關スル規定ニ依ル

第五十八條 府縣知事ハ府縣會ノ議決ニ依リ内務大臣及大藏大臣ノ

許可ヲ受ケ其府縣ノ全部若ハ市制施行ノ地ニ家屋稅ヲ賦課スルコ



トヲ得但家屋稅賦課ノ地ニ於テハ戶數割ヲ賦課スルコトヲ得ス

第五十九條 府縣内ニ土地家屋ヲ所有シ又ハ店舗ヲ定メテ營業ヲ爲

ス者ハ其土地家屋營業ニ對シテ賦課スル府縣稅ヲ納ムルモノトス

其法人タルトキモ亦同シ但郵便電信及官設鐵道ノ業ハ此限ニ在ラ

ス

府縣内ニ一戶ヲ構ヘ三箇月以上ニ及フ者ハ其戶數ニ對シテ府縣稅

ヲ納ムルモノトス但其課稅ハ一戶ヲ構ヘタル初ニ週リ徵收スヘシ

第六十條 府縣稅ノ賦課ニ付テハ納稅者カ其府縣外ニ於テ店舗ヲ定

メタル營業ノ收入ヲ其標準ニ算入スルコトヲ得ス

第六十一條 府縣會ハ各市町村内ニ於テ徵收スル府縣稅賦課ノ細目

ニ係ル事項ヲ關係市町村會ノ議決ニ付スルコトヲ得

前項市町村會ノ議決ハ法律命令又ハ府縣會ノ議決ニ抵觸スルコト

ヲ得ス

市町村會ニ於テ府縣會ノ指定シタル期限内ニ其議決ヲ爲サ、ルト



キハ府縣參事會之ヲ議決スヘシ

第六十二條 營業ノ狀況又ハ收入ヲ標準トシテ賦課スル府縣稅ニ付

テハ府縣知事ハ府縣會ノ議決ヲ經テ賦課額調査ノ爲其府縣内郡市

ニ調査委員ヲ置クコトヲ得

第六十三條 市町村稅免除ノ規定ハ府縣稅免除ニ對シテモ亦之ヲ適

用ス

第六十四條 府縣會ハ府縣内郡市町村ノ土木工事又ハ府縣内ノ教育

衛生勸業及慈善ノ事業若ハ營造物ニ對シ補助金ヲ與フルコトヲ議  
決スルコトヲ得

第六十五條 府縣會ハ家屋稅又ハ戸數割ノ全部又ハ一部ノ代納トシ

テ府縣ノ費用ヲ以テ支辨スル事業ニ對シ夫役又ハ現品ヲ出スヲ許

スコトヲ議決スルコトヲ得

第六十六條 府縣稅ハ納稅義務ノ起リタル翌月初ヨリ免稅理由ノ

生シタル月ノ終迄月割ヲ以テ之ヲ徵收スヘシ但日割ヲ以テ徵收ス



ルモノハ此限ニ在ラス

納稅義務消滅シ又ハ變更スルトキハ納稅者ヨリ之ヲ當該官廳ニ届

出ヘシ其届出ヲ爲シタル月ノ終迄ハ従前ノ稅ヲ徵收スヘシ

物件ヲ目的トシ納期ヲ定メテ一定ノ額ヲ賦課スル府縣稅ハ其納期

ニ於テ納稅義務ヲ負フ者其額ヲ納ムヘシ

府縣稅ノ前納ニ係ルモノハ其義務ノ消滅シ又ハ他人ニ移轉シタル

場合ト雖之ヲ還付セス但其義務ノ移轉ヲ受ケタル者ハ其前納期限

ノ終迄納稅セサルモノトス

第六十七條 府縣稅ハ法律命令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルモノヲ除

クノ外各市町村長ニ於テ市町村稅徵收ノ手續ニ依リ之ヲ徵收スヘ

シ

第六十八條 府縣稅ノ賦課ニ對シ錯誤アルコトヲ發見シタル者ハ徵

稅傳令書ノ交付後三箇月以内ニ之ヲ其傳令書ヲ發シタル廳ニ申立

ルコトヲ得但申立ノ爲其納稅ヲ拒ムコトヲ得ス



第六十九條 前條ノ申立ヲ爲シタル後二十一日以内ニ其更正ヲ得サルトキ又ハ其更正ヲ得ルモ之ニ不服ナルトキハ十四日以内ニ郡參事會ニ訴願シ郡參事會ノ裁決ニ不服ナルトキハ其裁決書ヲ交付シ又ハ之ヲ告知シタル日ヨリ十四日以内ニ府縣參事會ニ訴願シ府縣參事會ノ裁決ニ不服ナルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得但市ニ在テハ府縣參事會ニ訴願シ府縣參事會ノ裁決ニ不服ナルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

本條ノ訴願及訴訟ノ爲ニ其處分ノ執行ヲ停止スルコトヲ得ス

第七十條 府縣稅ノ免稅若ハ納稅延期ハ特別ノ事情アルモノニ限り

府縣知事ニ於テ府縣參事會ノ議決ヲ經テ之ヲ許スコトヲ得

府縣稅ノ滯納處分ハ國稅滯納處分法ニ依ル

第七十一條 東京府京都府大阪府ニ在テハ府ノ支出ニ充ツヘキ府稅

ヲ市部及郡部ニ分賦ス其分賦ノ割合ハ府會ニ於テ之ヲ議決シ内務

大臣ノ認可ヲ受ケテ施行スヘシ



前項市部ノ分部額ハ市ニ於テ之ヲ市ノ豫算ニ編入シ市税トシテ徵收シ其總額ヲ府金庫ニ納ムヘシ郡部ノ分賦額ハ此法律ノ規定ニ依リ之ヲ徵收ス但市部議員ハ其徵收ニ關スル議事ニ參與シ及議決ニ加ハラサルモノトス此場合ニ於テ若議長副議長市部議員ナルトキハ郡部議員ニ於テ臨時議長ヲ互選スヘシ

第七十二條 市制施行ノ府縣ニ在テハ郡廳舎建築修繕費郡吏員給料旅費及廳費ハ市ヲ除キ其他ノ部分ノミヲシテ其負擔ニ任セシムヘ

前項ノ府縣ニ在テハ其府縣ノ支出費目中市ト其他ノ部分ト利害ノ厚薄ヲ異ニシ均一ノ負擔ニ任セシムルコトヲ得サルモノアルトキハ其費目ニ限り其一方ノ負擔ヲ増加スルコトヲ得但負擔ノ割合ハ府縣會ニ於テ之ヲ議決シ内務大臣ノ許可ヲ受クヘシ若之ヲ許可スヘカラスト認ムルトキハ内務大臣之ヲ確定ス

第一項ノ負擔ニ任セシメ及第二項ニ依リ一方ノ負擔ヲ増加スルハ



賦課ノ稅率ヲ增加スルニ止メ其會計ヲ異ニスルコトヲ得ス但東京府京都府大阪府ニ在テハ前條ニ依ル

前項ニ依リ稅率ヲ增加スヘキ稅目ハ府縣會ノ議決スル所ニ依ル

第七十三條 府縣内ノ或ル部分ニ對シ特ニ利益アル土木事業ヲ起ス

トキハ府縣會ノ議決ニ依リ該部分ニ對シ通常府縣稅賦課ノ外其利

益ノ厚薄ニ應シ特ニ夫役現品ヲ增課スルコトヲ得

第七十四條 府縣ハ其舊債元額ヲ償還スル爲又ハ天災事變ノ爲已ム

ヲ得サル支出又ハ府縣ノ永久ノ利益ト爲ルヘキ支出ヲ要スルニ方  
リ通常ノ歲入ヲ增加スルトキハ府縣ノ負擔ニ堪ヘサルノ場合ニ限  
リ府縣會ノ議決ニ依リ公債ヲ起スコトヲ得

府縣會ニ於テ公債ヲ起スノ議決ヲ爲ストキハ併セテ起債ノ方法利  
息ノ定率及償還ノ方法ヲ定ムヘシ

府縣公債償還ノ初期ハ三年以内ト爲シ年々ノ償還歩合ヲ定メ起債  
ノ時ヨリ三十年以内ニ還了スヘシ



歳入出豫算内ノ支出ヲ爲スカ爲必要ナル一時ノ借入金ニシテ其年  
度内ノ收入ヲ以テ償還スヘキモノハ本條ノ例ニ依ルノ限ニ在ラス  
但府縣參事會ノ議決ヲ經ルコトヲ要ス

第七十五條 府縣知事ハ毎年其翌年度ニ係ル歳入出豫算ヲ調製スヘ  
シ但府縣ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ同シ

豫算ハ府縣會ノ議決ニ付スルノ前府縣參事會ノ審査ニ付スヘシ若  
府縣知事ト府縣參事會ト意見ヲ異ニスルトキハ知事ハ參事會ノ意

見ヲ豫算ニ添ヘ府縣會ニ提出スヘシ追加又ハ臨時ノ豫算ニ付テモ  
亦同シ

内務大臣ハ省令ヲ以テ豫算調製ノ式ヲ定メ並ニ費目流用ニ關スル  
規定ヲ設クルコトヲ得

第七十六條 豫算ハ毎年府縣會ノ議決ヲ取り之ヲ内務大臣ニ報告シ  
並ニ府縣ノ公告式ニ依リ其要領ヲ告示スヘシ追加又ハ臨時ノ豫算  
ヲ議決シタル場合ニ於テモ亦同シ



府縣ノ費用ヲ以テ支辨スル事業ニシテ數年ヲ期シ施行スヘキモノ  
又ハ數年ヲ期シテ其費用ヲ支出スヘキモノハ府縣會ノ議決ヲ以テ  
其年期間各年度ノ支出額ヲ定メ繼續費ト爲スコトヲ得

豫算ヲ府縣會ニ提出スルトキハ府縣知事ハ併セテ其府縣有財産表  
ヲ提出スヘシ

第七十七條 歲入出豫算中ニ豫備費ヲ設クヘシ豫備費ハ府縣知事ニ  
於テ府縣參事會ノ議決ヲ經テ已ムヲ得サル豫算外ノ支出又ハ豫算

超過ノ支出ニ充ツルコトヲ得但府縣會ノ否決シタル費途ニ充ツル  
コトヲ得ス

第七十八條 府縣ノ收支命令ハ府縣知事之ヲ發スヘシ

第七十九條 會計事務ヲ管理スル官吏ハ前條ノ命令アルニ非サレハ  
支拂ヲ爲スコトヲ得ス及其命令アルモ支出ノ豫算ナキカ又ハ豫備  
費支出及費目流用ノ規定ニ依ラサルトキハ支拂ヲ爲スコトヲ得

ス



第八十條 決算ハ會計事務ヲ管理スル官吏ニ於テ會計年度後三箇月  
以內ニ之ヲ府縣知事ニ提出シ府縣知事ハ府縣參事會ヲシテ之ヲ檢  
査セシメ次回ノ通常府縣會ノ認定ニ付スヘシ  
決算報告書並ニ之ニ關スル府縣會ノ議決ハ府縣知事ヨリ之ヲ内務  
大臣ニ報告シ並ニ決算ハ府縣ノ公告式ニ依リ其要領ヲ告示スヘシ

第五章 監督

第八十一條 府縣ノ行政ハ内務大臣之ヲ監督ス

第八十二條 府縣ノ行政ニ關スル訴願ハ其事件ノ處分若ハ裁決ヲ受  
ケタル日ヨリ二十一日以內ニ其理由ヲ具シテ内務大臣ニ提出スヘ  
シ

此法律ニ指定スル場合ニ於テ府縣知事ノ處分又ハ府縣參事會ノ裁  
決ニ不服アリテ行政裁判所ニ出訴セントスル者ハ裁決ヲ受ケタル  
日ヨリ二十一日以內ニ出訴スヘシ  
行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ヘキ場合ニ於テハ内務大臣ニ訴願



スルコトヲ得ス

訴願及訴訟ヲ提出スルトキハ處分又ハ裁決ノ執行ヲ停止ス但此法律中別ニ規定アルモノ又ハ當該官廳ニ於テ其停止ノ爲公益ニ害アリト認ムルトキハ此限ニ在ラス

第八十三條 内務大臣ハ府縣行政ノ法律命令ニ背戾セサルヤ其事務錯亂滯塞セサルヤ否ヲ監視スヘシ内務大臣ハ之カ爲行政事務ニ關シテ報告ヲ爲サシメ豫算及決算等ノ書類帳簿ヲ徴シ并ニ實地ニ就

テ事務ノ現況ヲ視察シ出納ヲ檢閲スルノ權ヲ有ス

第八十四條 府縣會又ハ府縣參事會ノ議決公益ヲ害スト認ムルトキハ府縣知事ハ理由ヲ示シテ議決ノ執行ヲ停止シ之ヲ再議セシメ猶其議決ヲ改メサルトキハ直ニ内務大臣ニ具狀シテ指揮ヲ請フヘシ府縣會又ハ府縣參事會ノ議決其權限ヲ超エ又ハ法律命令ニ背クト認ムルトキハ府縣知事ハ其議決ヲ取消スヘシ此場合ニ於テ府縣知事ノ處分ニ不服ナルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得



第八十五條 府縣會又ハ府縣參事會ニ於テ法律命令又ハ慣行ニ依テ  
 府縣ノ負擔ニ屬スル行政上又ハ公益上必要ノ費用ヲ否決シ又ハ議  
 決スト雖必要ノ給需ヲ缺クトキハ府縣知事ハ内務大臣ニ具狀シ其  
 指揮ヲ請ヒ原案ヲ執行スルコトヲ得但内務大臣ハ原案金額ヲ不相  
 當ト認ムルトキハ原案金額以内ニ於テ適當ノ金額ヲ定メ指揮スル  
 コトヲ得

第八十六條 府縣會招集ニ應セス又ハ成立セサルトキハ府縣知事ハ

内務大臣ノ指揮ヲ請ヒ專決處分スルコトヲ得  
 前項ノ處分ハ次回ノ會議ニ於テ之ヲ報告スヘシ

第八十七條 府縣會又ハ府縣參事會ニ於テ其議決スヘキ議案ヲ議決  
 セス又ハ府縣會ニ於テ招集前正當ノ手續ヲ以テ告知セラレタル議  
 案ヲ第二十一條第一項ニ定メタル期限内ニ議了セサル場合ニ於テ  
 其事緊急ヲ要スルトキハ府縣知事ハ内務大臣ニ具狀シ其指揮ヲ請  
 ヒ原案ヲ執行スルコトヲ得但其議決セス又ハ議了セサル議案藏入



出豫算ニ係リ内務大臣ニ於テ原案金額ヲ不相當ト認ムルトキハ原案金額以内ニ於テ適當ノ金額ヲ定メ指揮スルコトヲ得

第八十八條 内務大臣ハ府縣ノ歳入出豫算中不適當ノ支出ト認ムル費目アルトキハ之ヲ削除シ及其府縣ノ資力ニ比シ不急ノ支出ト認ムル費目アルトキハ之ヲ削除若ハ減殺スルコトヲ得此場合ニ於テハ收入科目中ニ就キ之ニ相當スル收入額ヲ減殺スヘシ

第八十九條 府縣會ノ解散ハ勅令ヲ以テス此場合ニ於テハ三箇月以

内ニ議員ヲ改選スヘシ

前項解散ノ場合ニ於テハ名譽職參事會員モ亦解職スルモノトス府縣會解散ノ後改選結了ニ至ル迄ノ間急施ヲ要スル事件アルトキハ府縣知事ハ專決處分スルコトヲ得  
前項ノ處分ハ次回ノ會議ニ於テ之ヲ報告スヘシ

第九十條 左ノ事件ニ關スル府縣會ノ議決ハ内務大臣及大藏大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス



一 新ニ府縣ノ公債ヲ起シ又ハ其額ヲ増加シ及利息ノ定率若ハ償還ノ方法ヲ變更スル事

二 地租四分ノ一ヲ超過スル府縣稅ヲ土地ニ賦課スル事

三 法律勅令ノ規定ニ依リ官廳ヨリ下渡ス歩合金ニ對シ支出金額ヲ定ムル事

第九十一條 左ノ事件ニ關スル府縣會ノ議決ハ內務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

一 府縣有不動産ノ賣却讓渡並ニ質入書入ノ事  
二 第七十二條第二項ニ依リ市若ハ其他ノ部分ノ負擔ヲ増加スル事

三 第七十三條ニ依リ府縣内ノ或ル部分ニ對シ特ニ夫役現品ヲ増課スル事

四 第七十六條第二項ニ依リ繼續費ヲ定メ及其年期内ニ議決ヲ變更スル事



第六章 附則

第九十二條 行政裁判所ヲ開設スル迄ノ間此法律ニ依リ行政裁判所

ニ屬スル職務ハ現行ノ行政裁判手續ニ從ヒ控訴院ニ於テ之ヲ行フ

ヘシ

第九十三條 市制町村制施行ノ爲定ムル直接税ノ種類ハ此法律ノ施

行ニ付テモ亦之ヲ適用ス

市制町村制郡制及此法律施行ノ爲將來ノ租税ニ付直接税ト爲スヘ

キモノハ内務大臣及大藏大臣之ヲ告示スヘシ

第九十四條 此法律ハ郡制市制ヲ施行シタル各府縣ニ施行スルモノ

トス其施行ノ時期ハ府縣知事ノ具申ニ依リ内務大臣之ヲ定ム

第九十五條 此法律施行ノ後ハ市制第二百二十二條第三ニ定ムル附加

税徴收ノ許可ハ東京市京都市大阪市ニ在テハ地租七分ノ三、二五

(二十八分ノ十三)其他ノ市ニ在テハ其七分ノ一半(十四分ノ三)ヲ

超過スルトキ之ヲ要スルモノトス



第九十六條 府縣内ニ在ル島嶼ノ其本地ニ對スル關係ニ付テハ勅令ヲ以テ特例ヲ設ク

郡制ヲ施行セサル島嶼ヨリ選出スヘキ府縣會議員ノ選舉ニ關シテハ別ニ勅令ヲ以テ其制ヲ定ム

第九十七條 明治十三年四月第十五號布告府縣會議規則明治十四年二月第八號布告區郡部會議規則明治二十二年二月法律第六號府縣會議員選舉規則其他此法律ニ抵觸スル成規ハ此法律施行ノ府縣ニ於テ

其施行ノ時期ヨリ總テ之ヲ廢止ス

第九十八條 內務大臣ハ此法律施行ノ責任シ之カ爲必要ナル命令ヲ發布スヘシ



